



高句麗の広開土王(好太王)碑 高さ6.4m。

7

大和朝廷と東アジア

♣ 5世紀から6世紀にかけて、大和朝廷は、朝鮮半島や中国の国々と、どのようなかわりをもったのだろうか。

① 現在の平壤(ピョンヤン)付近を中心とした地域。

② 現在のソウル。

百濟を助け 高句麗と戦う。 古代の朝鮮半島の国々や日本は、中国の動向によって大きく左右された。220年に漢がほろんでから6世紀末まで、中国では、多数の小国に分かれたり、南北に分かれたりして争う内乱の時代が続き、周辺諸国におよぼす影響力が弱まった。

...5

そんな中、4世紀以降、朝鮮半島北部の高句麗がしだいに強大になった。高句麗は、4世紀の初めに、朝鮮半島内にあった中国領土の楽浪郡を攻めほろぼし、4世紀後半には半島南部の百濟をも攻撃した。百濟は大和朝廷に助けを求めた。日本列島の人々はもともと、貴重な鉄の資源を求めて半島南部と深い交流をもっていたので、大和朝廷は海を渡って朝鮮に出兵した。このとき、大和朝廷は、半島南部の任那(加羅)という地に拠点を築いたと考えられる。

...10

大和朝廷の軍勢は、百濟を助けて、高句麗とはげしく戦った。高句麗の広開土王(好太王)の碑文には、そのことが記されている。高句麗は、百濟の首都漢城を攻め落としたが、百濟と大和朝廷の軍勢の抵抗にあって、半島南部の征服は果たせなかった。

...15

倭の五王による朝貢... 5世紀中ごろ、中国では漢民族の南朝と、遊牧民族の北朝に分かれて争う南北朝時代をむかえた。南朝の歴史書には、倭の5人の王(倭の五王)が、10回近く

...20

